

「関節リウマチ患者における結核診断検査Enzyme-Linked ImmunoSpot (ELISPOT)陽性率の継時的変化の検討」研究へのご協力をお願い

関節リウマチ患者さんでは、その治療薬などにより、昔罹患して現在は眠っているような感染症が再び目を覚ましてしまうようなことがまれに起こることがあります。特に、結核は昔の感染症のイメージですが、日本は主要先進国の中でも結核感染が未だに多いことが知られております。

今回の研究は、当院に通院中の関節リウマチ患者さんの過去のカルテ情報および、過去の採血での結核診断検査(ELISPOT)データを収集し解析いたします。研究のために新たに検査や治療を行うことはありません。患者さんの個人情報を含む診療情報は厳重に管理し、それが一切外部に漏れないようデータの解析を行います。研究成果は学会や学術雑誌で発表することもあります。個人情報は公開されません。

研究の方法等についてお知りになりたいときには、研究担当医師までご連絡くだされば説明いたします。あなたの診療情報の利用を拒否することも可能ですので、そのような場合には主治医にお申し出ください。何卒ご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

平成29年5月

独立行政法人国立病院機構 相模原病院
リウマチ科 野木 真一